健保の改悪はかる

個人負担は増えるばかり

政府はこのまえ二回も廃案のうき目をみました健康保険改悪案を、またまた三回第二十五国会に上提しました。

上程された改悪案は、この前の案と基本的には変りはありません。いぜんとして被保険者の負担が増すようになり、医療機関へのしめつけが柱になっています。

くわしくいえば二十四国会の参院で廃案になる前に、そくに佐々木案といわれる衆院の修正案を、こんどの改悪案の内容にしていることは広く知られております。

すなわち一部負担の増額は初診日ごとに百円、入院料は三カ月にかぎり一日三十円としております。医療機関へのしめつけは、監督権への強化をはかつて、機関の二重指定制によつて医療を官僚の統制の下におこうとしているのです。

前回と内容は同じ

はじめ政府は二十四国会で闘かわれていたスト規制法の闘いに、健保の闘いが一緒になるのをおそれて上程をまよつていたが、厚生省の強い要求やスト規制法反対の闘い、それに会期にたいする見通しからついに上程のはらをかためたのです。

時間的な余裕のないことや、改案の内容が前回のとその骨組みがあまり違わないのを理由に、諮問機関「社会保険審議会」の意見も求めずに、また数回にわたつて「社会保障制度審議会」や「医療協議会および関係会議」が勧告してきた国民皆保険、結核対策をたくみにサボつて、これを厚生省四カ年計画にスリ代えて日経連と口をあわせ、国民皆保険のため医療負担のデコボコをなおすということにし、強引に組織と医療関係者の反対をおしきつて数の暴力で会期の中で継続審議を可決しています。

対案を社会党が

ところがこれにたいして社会党では具体案のない反対闘争は発展しないという考えで、総評や医療関係者と数回にわたつて討議をしました。そこで社会党案をつくり上げ、政府案よりさきに上程したのでした。

私たちはこの案を支持して政府案の上程を喰いとめるために審議会で前段の闘いを組み、諮問を要求して厚生省と政府にせまり、医療機関との共闘に努力してきたのですが、国会の自然休会で停とんしているのがいまの状態です。

ちかく再開されます院内での闘いは、政府案と社会党案が対決してゆき、これに総評が社会党と協力して政府にせまることになつています。

気安く行けぬ病院

健保の改悪が通れば、私たちの個人負担が増えるのははつきりしていますし、近ごろのように感冒が流行したり、いろんな病気が流行しても気安く病院にもいかれなくなることになります。給料は安いのに出す金は増えるばかりでこんな馬鹿なことを考えている、政府の案には、私たちが立上つて反対の闘いを強く推しすすめるほかはないのです。

狙われた二つの手口

十六日、給料は一日寝ていまから羽根をはやして飛びだそうとします午前十一時、化粧品の宣伝カーが寝ている三番方をたたき起しながら社宅に入つてきます。

「試験用にクリームを無料で差し上げますので、容器ご持参でニュースカーのところへ集つて下さい…」社宅は一応朝の始末のついた時間です。奥さんたちは容器を手に手に集つてきます。なるほどニュースカーがなり立てた通り無料奉仕が始つた。だがそれは先着順でほんの四、五人だけでした。その後は化粧品の宣伝で、無料サービスは故意に忘れられてしまい、宣伝が終れば販売が始りました。それだけでしたらまだしも、ニュースカーがつぎのたまりに走り出す間際に「今日店を出るとき、運転手と結托して盗みだしてきた品です。市販に七百円でだしているのですが、そんな訳ですから二百円にしておきます」。

全く火事ドロにひとしいやりかたで緑ガ丘社宅を廻つているのです。

◇　◇

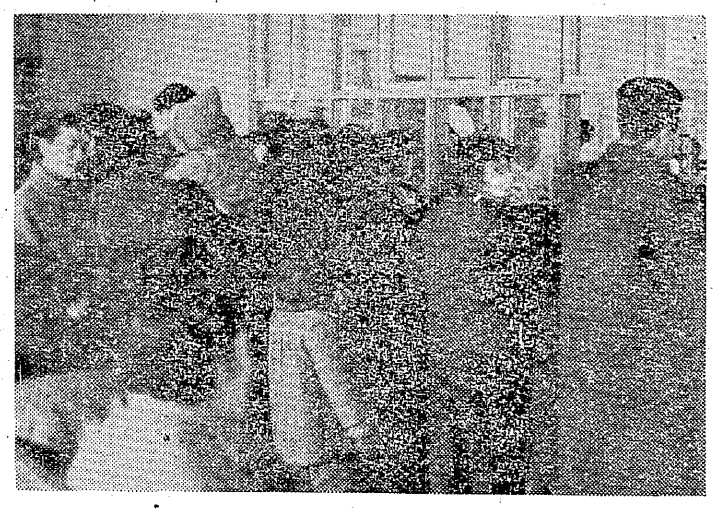
どこからみても進駐軍の労務者と思われる服装格恰の男の人が社宅を徘徊しています。

「アメリカの将校がただいま山鹿温泉に遊びにいつているが、ドルしか持つていないので困つて、この洋服生地を売つて旅費にあてるといつているので、どうですか」「かれらは円の値段を知らないので安いですよ。生地だつて本国から持つてきたのですから」

ちようつと日本人ばなれのしたアクセントでなかなかいいせりふですが品物は全くの粗悪品でした。イケスカないといいたいですが、これにひつ掛つた人が相当いるようですので、一笑にふすことはできないのではないでしようか。

組合でやつているせつかくの給料寝かせ運動です。よくよく注意してこんな穴はみんなでふさいで行きましよう。

緑ガ丘　清田



写真＝感冒で病院は満員の盛況

興味は下位争い

大地評駅伝の予想を聞く

寒風をついてひた走る冬の祭典駅伝シーズンがやつてきた。

大地評第六回駅伝競走は二月十日いよいよ挙行されることになつたが、今年は参加十四チーム（宮浦、三川、四山、本所、港務、製作、三梁、東圧、合成、電化、三煉、国鉄、自労、大中連）で市労連の欠場に代つて国鉄の初出場、それに新たに参加する大牟田地方中小企業の組合で、はやくも各チームはこの日を目指して練習に一生懸命だ。三鉱駅伝も昨年通りにこの大会と一緒に行われることになつているが、去る十九日には三作支部が部内マラソン（白銀橋折返し）を行えば、翌二十日（日曜）には本所、三川がそれぞれ職場対抗の駅伝絵巻をくりひろげて敢闘した。

編集部では来る十日の大地評駅伝の予想を、本所支部渡、宮原両ベテラン（白井売店）を訪れて対談して貰つた。

首位争いは東圧、四山

○まあ優勝候補はツブのそろつている東圧だろうな。

×それを追うのが四山だろう。去年は四山は追込みに主力を注ぎ、東圧は全般的に逃げていた。

○四山の兼行、東圧の中川原この二人は対等とみてよいだろう。

×五十二分台の黒川は年はとつているが中原らを擁する染料が、三川の新鋭とどう闘うかで三位決定がきまるだろう。三川の鶴、池田が好調でなく部内対抗で彼らの好調がどの位になつているかがポイントだろう。三位争いもトツプ争いにつづく面白いものとみられている。五、六位を宮浦と三作かな

○しかし何といつても一番の興味は六位以下でこの辺になると実力もそう違わず、その日のコンディションで勝敗がきまるし、混とんとしている。

港務所敢闘か

×港務所は早くから部内対抗などしているから、最低から脱出しようとする意気がみられる。三鉱では本所は三十以上のものが多く新陳代謝が必要で遠くすると今年は最低にはなりはしないかと心配している（下は支部駅伝スナツプ）

○コースが短い、大地評駅伝も大牟田を出れば何の役にもたたん。最低十キロは欲しい、これは大地評や三鉱にしろレクレーション的なことを考えているのだろう。それに練習期間も一カ月は欲しいな二週間位では普通のコンディションになるのは無理だ。

×結局長距離に勝つのは練習量でそれが多い所が優勝しているね。

若い選手が欲しい

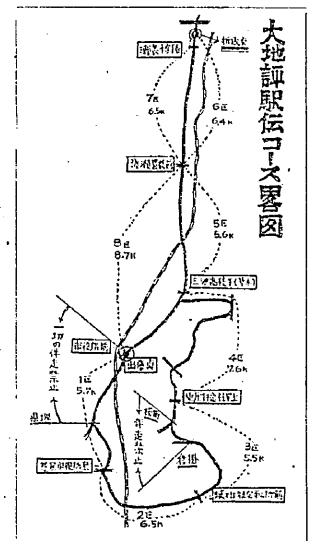
○会社も積極的に若い選手を各種競技に出すべきだ。これによつて選手が練習をつむし、成績も向上する。日本一炭の出る所に日本一の選手がいないのは不思議だ。

×田川はバレーは日本一だが、あすこは若い選手を毎年一人か二人入れている。三池も同じ三井系統だからせめて一、二人毎年若い人を入れられぬことはないと思うなそれによつて他が刺戦されて練習も盛んになることは当然だろう。

○まあいまのところ大地評駅伝に勝とうと思えばオール三池をつくるか、ABCのチームをつくることだろうな。

×それに大地評駅伝をもう少し盛んにするには内容をもう少し充実させねばならない。日本の水準を考えればもう少し強くなかさねばならないと思う。結局一人強いのがおればみんなが強くなるな、それは練習が盛んになるからだろう。

（写真は上宮原氏、下猿渡氏）



留守を頼みます

西独行き元気に羽田発

西独炭鉱派遣のため去る四日、三池をあとにした本田警明（宮浦22）貝田正実（四山23）川崎博美（三川22）の三氏は、一月八日より十五日まで横浜の外務省移住輸旋所で基礎訓練を受けていたが、訓練も終り、十九日午後三時、一行五十九名と一緒に羽田発のスカンジナビア機で一路母国をあとに西独へ旅立つた。

この日羽田空港のロビーには家族をはじめ組合、会社、労働省からなる見送り人約三百人が集つた。三池からは上京中の清地次長、遠尾労働部長が見送りに加わつたが全員元気で留守中のことを頼み西独へと向つた。

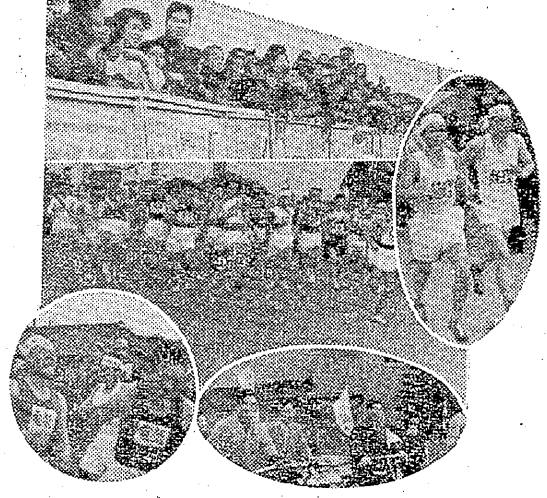
なお出発を前にして三氏が組合本部へ送つた手紙が二十一日届いたが大要つぎの内容です。

われわれ三人の出発に際しましては過分なる御餞別と御見送りをいただき、ただただ感謝いたしております。

四日に出発しまして車中で、田川、山野の人たちと一緒になり五日夜には東京で三井全員が集合終り、その夜から三井全体としての行動が始りました。

……中略……

今日、正午より経協連主催の送行会が開かれ、各官庁および会社、組合の送行の「ことば」でわれわれも感を新にして西独に参り、西独の労働者と一致団結して労働外交をやつて参ります最後に三年間留守にする組合の発展を祈ります。



大谷で写真展

大喜びの駅伝応援者

大谷地域分会では去る二十日地域分会はじめての第一回写真展示会を行つた。

これは同分会内でつくられている写真サークルの人たちの間で計画されたものだが、サークル活動の推進のために文化部で取上げ展示会にもつていつたものであり、これを契機に分会各種サークルのこんどの動きが活発化するのではないかと期待が寄せられている。

この日はちようど三川駅伝にあたり、とくに大谷の坂道はコース一の難所とまでいわれた一名〝心臓〟に、応援がぞくぞくつめかけた。

展示会は午前九時から午後五時まで作品八十点が飾られて行われたのであるが、応援に集つた人たちは選手の走つてくるまでの間を展示会を見るので大満員、好評を博している。

展示会は〝目で見る十年史〟形式がとられていたが、第一回の会が好評を博しただけに、第二回の展示会も時期を考えて引続き行うならよいという声も起つている。

〝祝りの丘〟とまでうたわれただけで作品八十点が飾られて行われたのであるが、応援に集つた人たちは選手の走つてくるまでの間を展示会を見るので大満員、好評を博している。

展示会は〝目で見る十年史〟形式がとられていたが、第一回の会が好評を博しただけに、第二回の展示会も時期を考えて引続き行うならよいという声も起つている。

セロファン

シエクスピアの悲劇「オセロ」が一般公開前、主婦会や民主団体の招待試写会があつた。

この映画を見たのか、一老人が「アア今日のセロファンちう映画はよかつた」といつていた。これではシエクスピアも喜劇をつくらなければならなかつた。

患者多々

全国的に流行性感冒（インフルエンザ）が猛威をふるい、小中学校は臨時休校という恰好だ。これも石橋、池田のインフレー大臣が出来たからだという人もいる。

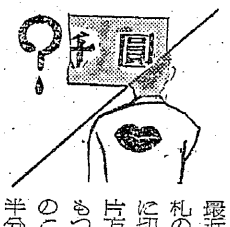
この感冒の流行により、薬店やお医者さんが大繁盛で、医局の先生も労働強化だと汗だくだく。この人出の多いことをこんな風に説明した人がいる。

「一寸田井の病院さん来てみんの、患者の行列で、余り多かのでオスナ、オスナで口紅がつく位バン」

半分の千圓札

組合本部の丑部長は、自他ともにゆるす、そこつものである。

最近千円札の半分に切れた片方だけもつて、のこりの半分を尋ねていたがついに行方がわからず千円バーだと、悔んでいたが、経理の丑さんが「私にまかしとき」といつて労金に持つて行き、最近五百円を丑部長に渡した。一文にもならないとあきらめていた、半分の千円札が五百円になつたので大喜び、これは札が半分以上あつた場合は半額、三分の二以上の場合は七割ということである。



機関紙コンクール

三川教宣部で主催

地域・職場の機関紙はここ一、二年、文化・教宣活動の活発化にともなつてぞくぞく発刊されているが、三川支部教宣部ではこんど支部ではじめての「機関紙コンクール」を開催することになつた。

コンクールの要領は二月二十日締切、一、二月号が審査対象で二部を支部教宣部宛に送ることになつている。

なお賞として一位に支部長賞とガリ版道具一組、二位ガリ版道具、三位原紙一箱となつており、他に参加賞、個人賞も用意されている。

二秒違い二名

三川駅伝のタイム当て

三川駅伝は一位が一時間十五分で二秒違いの左記二名が当選した。

一位　三上　悟（鍛冶）一、一四、五八

二位　本郷　五男（仕上）一、一五、〇二